

今月の農家さん

「おいしい!」の笑顔でパワーに

野洲市五之里
岩井 俊樹さん (20才)



今年、農業大学校を卒業し、野菜づくりを始めた岩井さん。稲作を営むご両親を手伝いながら、トウモロコシやキャベツ、ブロッコリーなどを育て、おうみんちに出荷しています。

岩井さんは「野菜が大きく育つと嬉しいです。特に『自信作』の野菜が売れると、やりがいを感じます」と笑顔を見せます。

時には、野菜を害虫やキツネに食べられたり、多く栽培しすぎて収穫が追い付かなかったりと失敗する事もあります。しかし、失敗の都度、岩井

さんは同じ事を繰り返さないよう工夫を加え、成長に変えています。

そんな岩井さんの夢は、畑のそばに直売所や観光農園を開くこと。「おいしい」と言ってくれる人の笑顔のパワーに農業を頑張りたいそうです。

最後に岩井さんは「農業は思うようにいかない事も多々あります。どんな失敗があるか様々なパターンを予測して、準備しておくことが大切です」とこれから農業を始める方にエールを送りました。

営農情報

◆稲刈り跡の除草について ① 耕種的防除

クログワイやミズガヤツリは、稲刈り後も生育を続け、地中に塊茎を形成します。これらの雑草は、薬剤での防除は困難ですが、塊茎は低温や乾燥に弱いという特徴があります。

そのため、秋耕(耕起)を行い、塊茎や球根などの地下繁殖器官を地表に露出させることで、死滅を促すことができます。雑草が多かった圃場や後期除草後も雑草が残った圃場は、特に丁寧な秋耕を行うとよいでしょう。

ただし、降雨や積雪などで土が湿った状態では、効果が薄れるため、作業前後は天気に注意してください。

また、キシウスズメノヒエは、切断された茎から逆に増殖しますので、薬剤で防除してください。

② 除草剤防除

稲刈り跡に、クログワイやミズガヤツリ、ホタルイなどが20cm程度まで再成長した時は、ラウンドアップマックスロード50倍液を、10aあたり50ℓを目安に散布することで効果的に除草できます。

この方法は、畦畔から匍匐茎を伸ばして侵入するキシウスズメノヒエやアシカキにも有効です。

ただし、この薬剤は、茎や葉に薬液を吹きかける事で効果を発揮する「茎葉処理除草剤」なので、雑草がワラなどに隠れていると効果が薄れます。

また、雑草の生育が停滞する頃になると、十分に効果が発揮できないため、11月から12月初頭までに散布しましょう。



▲キシウスズメノヒエ

クログワイ▶

